

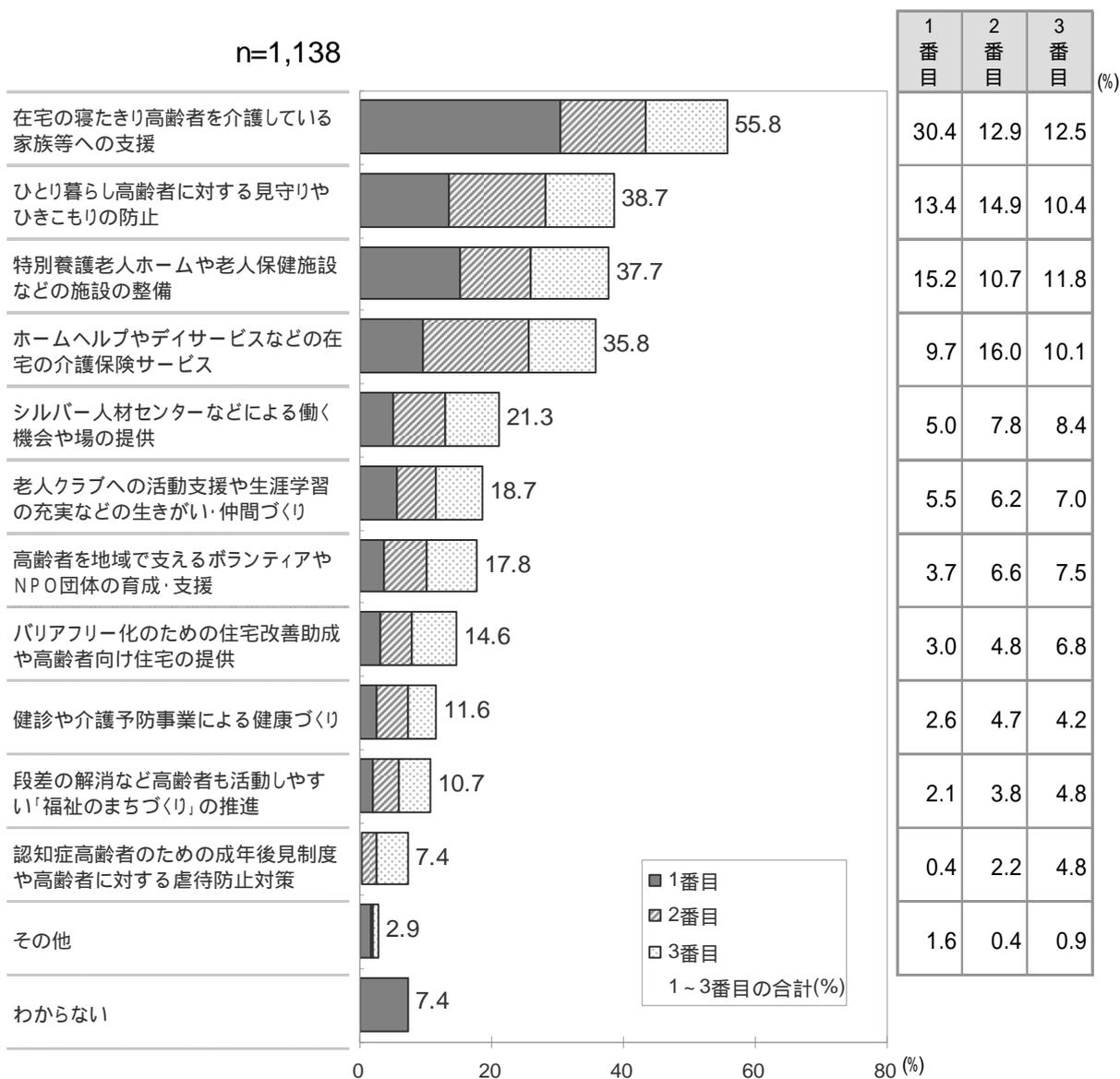
# 調査結果の分析

# 1. 高齢者対策

## (1) 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う施策

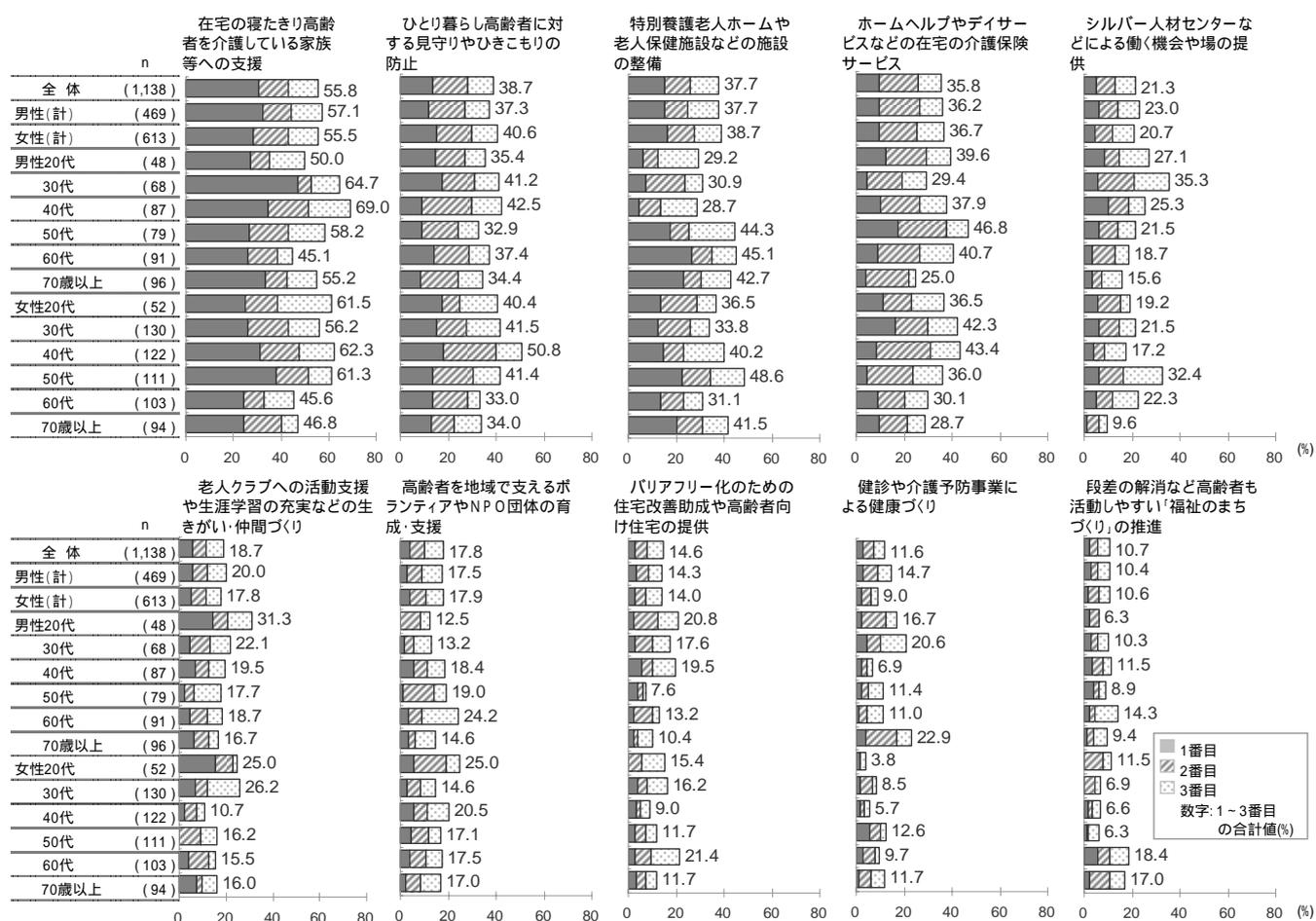
(全員の方に)

問1. あなたは、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らしていくために、特にどのような施策が必要だと思いますか。(上位3つ)



- 全体で見ると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」(55.8%)が5割半ばと最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」(38.7%)、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」(37.7%)、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービス」(35.8%)の順となっている。
- 1番目に必要だと思う項目の上位は、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」(30.4%)、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」(15.2%)、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」(13.4%)の順となっている。

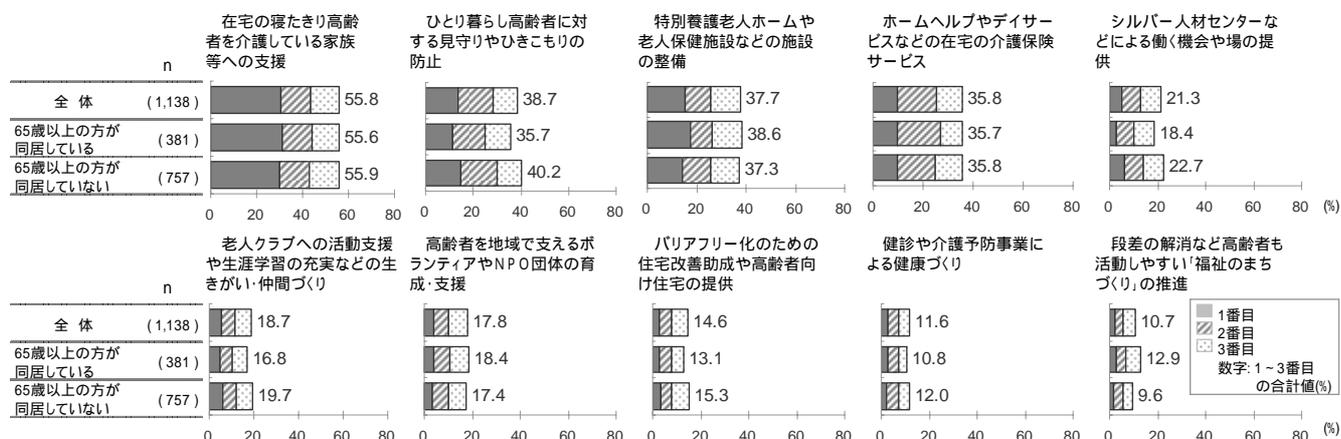
[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う施策 - 性/年代別 (上位 10 項目) ]



- ・ 性別にみると、最も高いのは男女共に「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」でいずれも半数以上を占めている。
- ・ 1番目に必要だと思う項目についても、男女共に「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」であり、いずれも3割前後となっている。
- ・ 性/年代別にみると、全世代において「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」が最も高く、4割半ば～6割半ばとなっている。特に、男性40代(69.0%)では約7割と高い割合を占めている。また、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」は、1番目に必要だと思う項目に関しても全世代共通で最も高くなっている。
- ・ 「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」では、20代～40代までは年代が上がるごとに割合が高くなっているが、50代以上は低い割合である。
- ・ 一方で、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」では、女性60代を除く50代以上の世代で4割半ばの高い割合を占めており、高齢者対策の対象者に近い世代の意見と若年層の意見には相違がみられる。

## [ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う施策

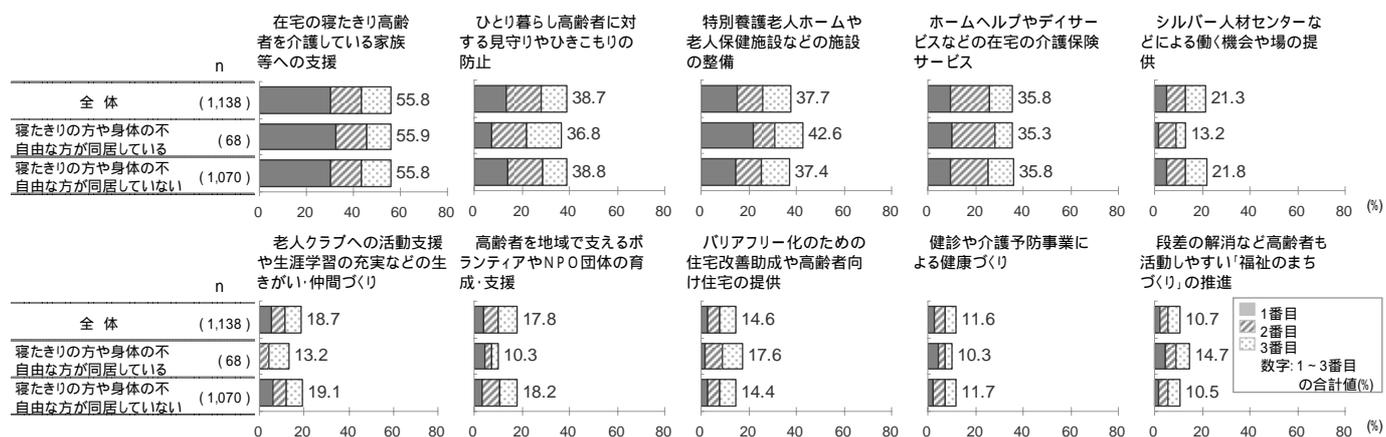
### - 65歳以上の方との同居の有無別（上位10項目）]



- ・ 65歳以上の方と同居している人において、最も高いのは「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」(55.6%)で約半数となっている。次いで、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」(38.6%)、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービス」(共に 35.7%)の順で続いている。

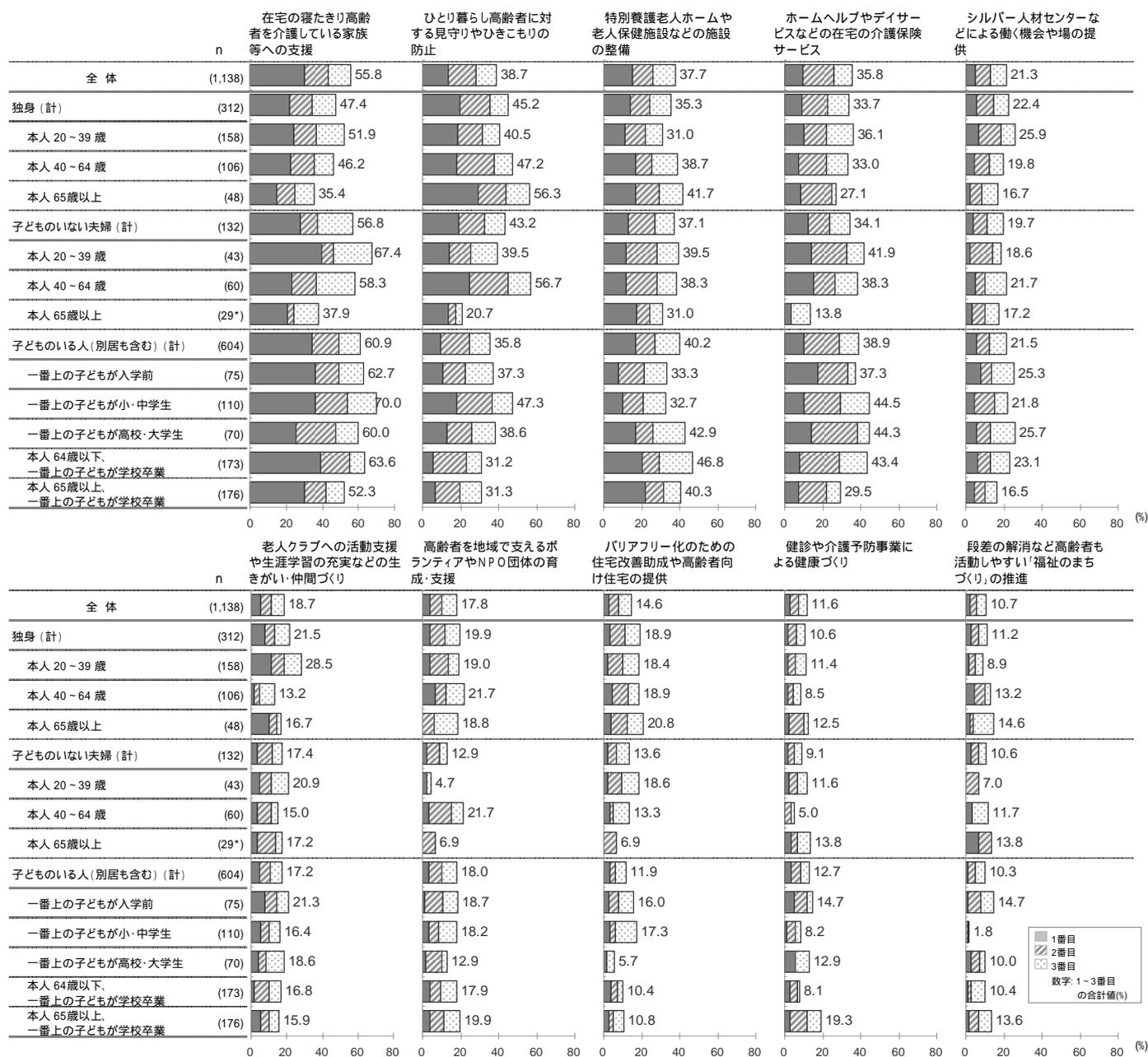
## [ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う施策

### - 寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別（上位10項目）]



- ・ 寝たきりの方や身体の不自由な方と同居している人においても、最も高いのは「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」(55.9%)と半数を超えている。次いで、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」(42.6%)、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」(36.8%)の順で続いている。
- ・ 「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設の整備」に関しては、全体では第三位だが、65歳以上の方・寝たきりの方や身体が不自由な方と同居している人においては共に第二位となっているのが特徴的である。

[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために必要だと思う施策  
- ライフステージ別 (上位 10 項目) ]

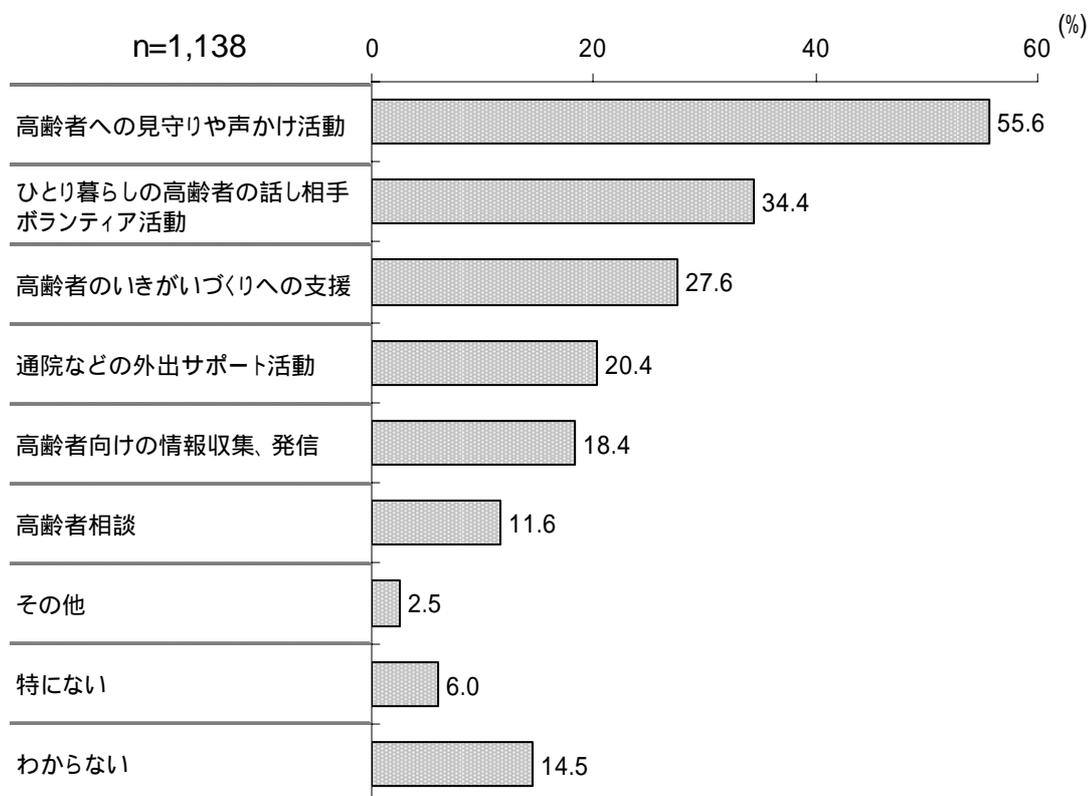


- ・ ライフステージ別にみると、全体では 55.8%と最も高い「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」に関して、独身世帯では全体平均以下の割合であるのに対して、子どものいる世帯では約 6 割～7 割と高い割合となっている。
- ・ 全体では 38.7%と二番目に高い「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」に関しては、独身世帯(本人 65 歳以上)で 56.3%、子どものいない夫婦(本人 40~64 歳)で 56.7%といずれも半数以上を占めている。全体平均と比較すると 17 ポイント以上も高い割合となっている。

(2) 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動

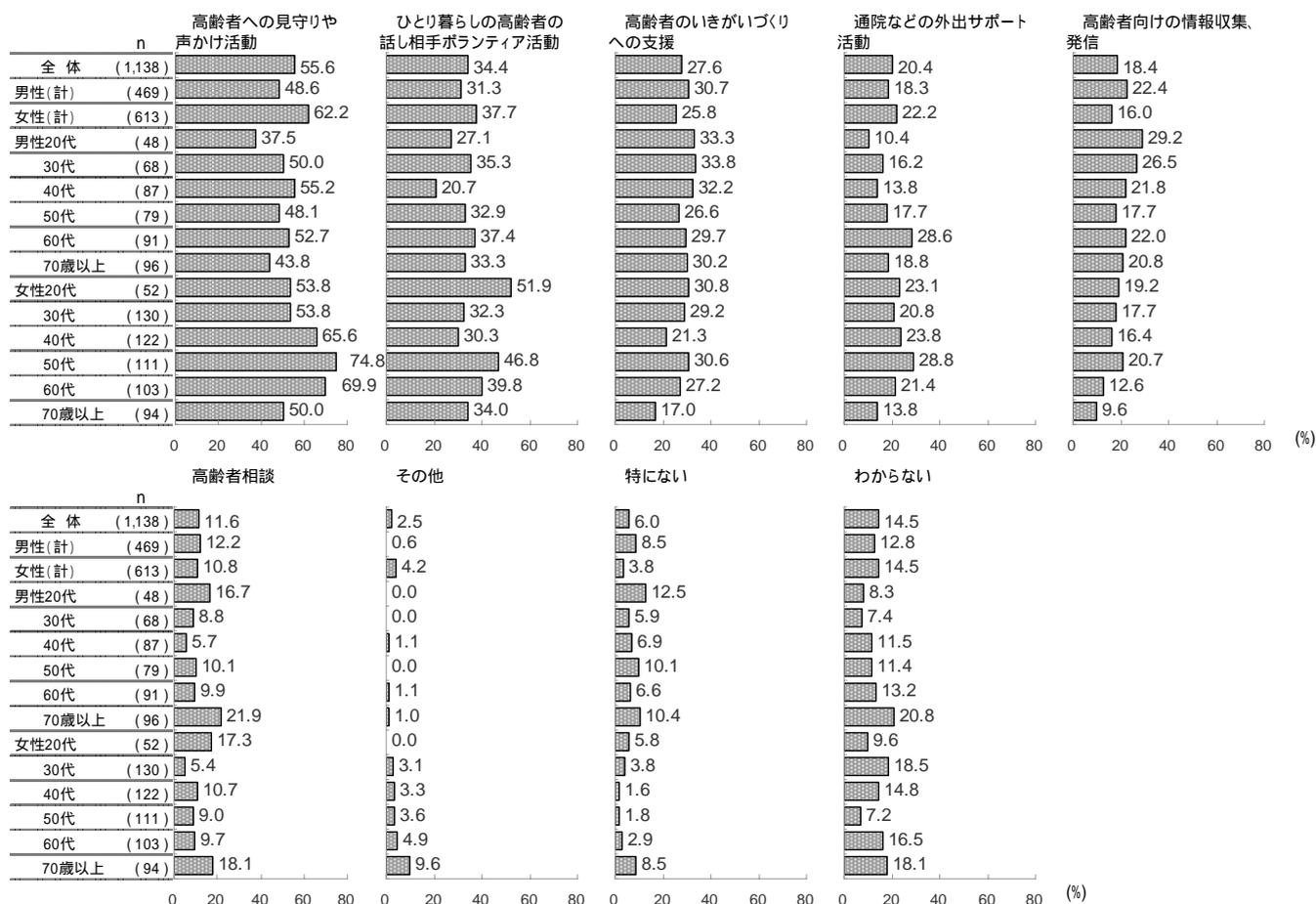
(全員の方に)

問2. 高齢者の方が住みなれた地域でいつまでも安心して暮らしていくために、あなたが協力してもよいと思う地域活動は何ですか。(いくつでも)



- ・ 全体でみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」(55.6%)が半数以上で最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア活動」(34.4%)、「高齢者のいきがづくりへの支援」(27.6%)の順となっている。

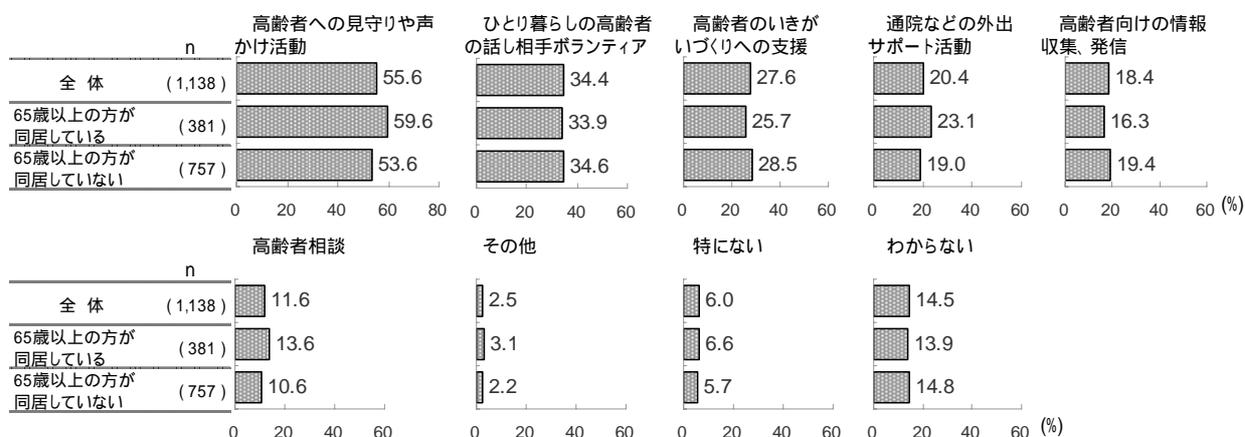
[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動 - 性 / 年代別 ]



- ・性別にみると差のある項目が多い。男性においては、「高齢者のいきがづくりへの支援」や「高齢者向けの情報収集、発信」が女性よりも5~6ポイント前後高くなっている。
- ・女性においては、「高齢者への見守りや声かけ活動」、「ひとり暮らしの高齢者の話し相手ボランティア活動」、「通院などの外出サポート活動」など高齢者の日常生活を支援する活動に関して男性よりも高い割合となっている。特に、「高齢者への見守りや声かけ活動」は、男性よりも13.6ポイント高い割合となっている。
- ・性 / 年代別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」に関して、女性は全年代において半数以上の高い割合を占めている。中でも40代~60代は6割半ば~7割半ばであり、特に高い割合となっている。
- ・「高齢者向けの情報収集、発信」においては、若い年代であるほど高い傾向がみられる。

[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動

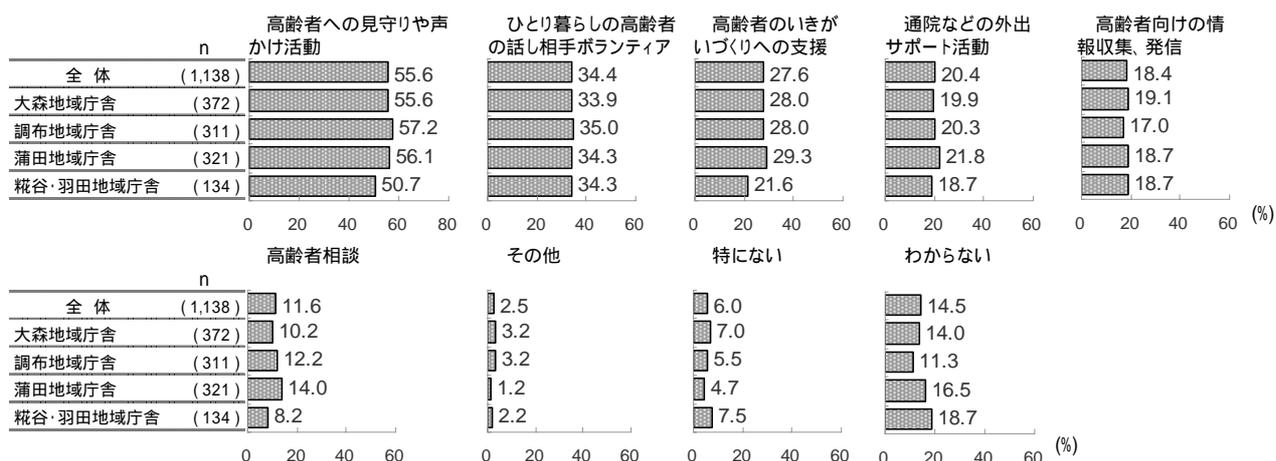
- 65歳以上の方との同居の有無別 ]



- ・ 65歳以上の方と同居している人において、最も高いのは「高齢者への見守りや声かけ活動」の59.6%である。
- ・ 全体平均と比較して、65歳以上の方と同居している人のほうが高めの項目としては「高齢者への見守りや声かけ活動」(+4.0ポイント)、「通院などの外出サポート活動」(+2.7ポイント)、「高齢者相談」(+2.0ポイント)となっている。

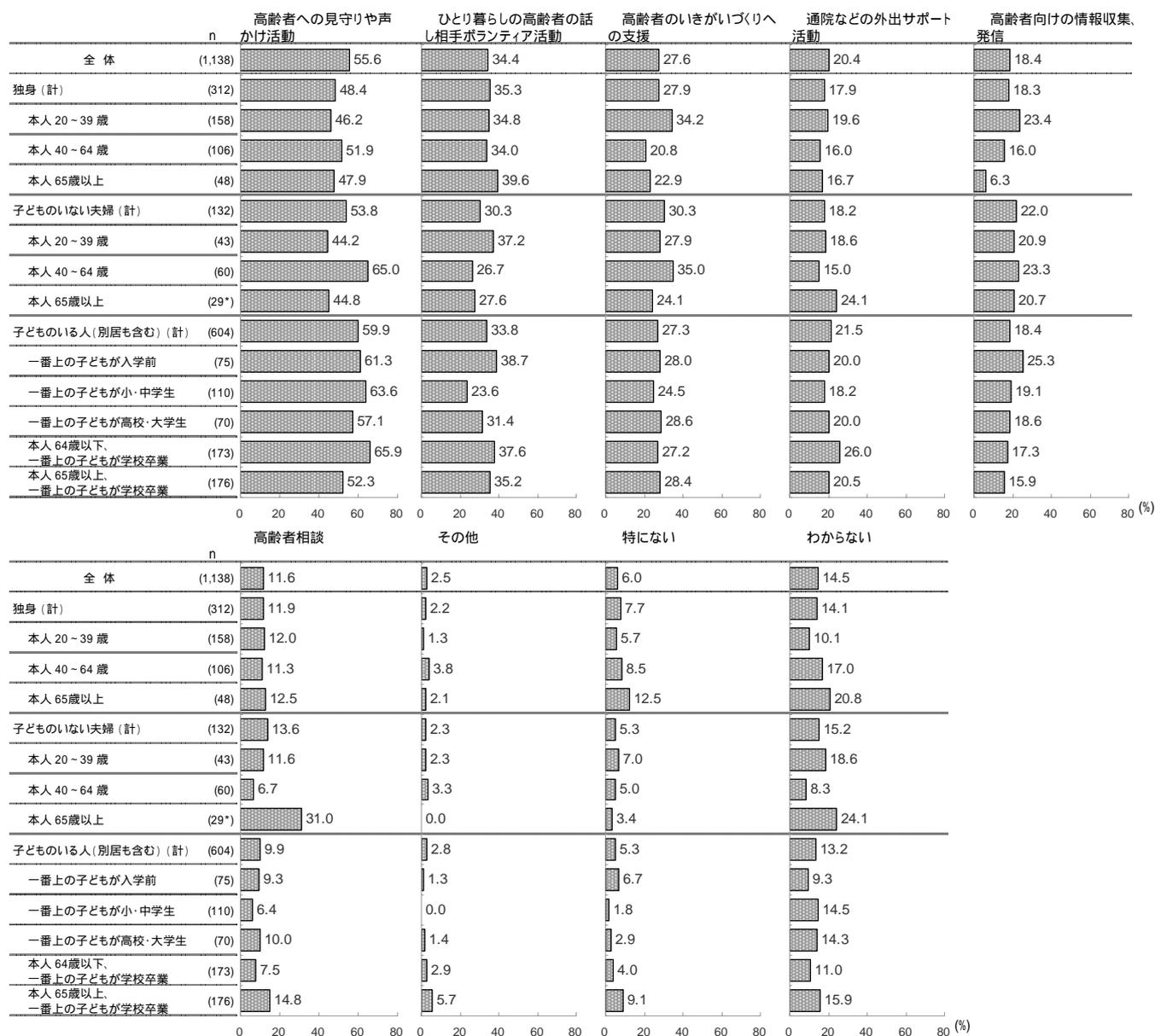
[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動

- 地域庁舎管内別 ]



- ・ 地域庁舎管内別にみると、全ての地域で「高齢者への見守りや声かけ活動」が最も高く5割を超えている。
- ・ 糎谷・羽田地域庁舎管内は他の地域と比較するとやや低い傾向があるが、全地域とも順位は全体平均と共通している。

[ 高齢者が地域で安心して暮らしていくために協力できる地域活動  
- ライフステージ別 ]



- ・ ライフステージ別にみると、「高齢者への見守りや声かけ活動」においては、『独身(計)』は48.4%であり全体平均(55.6%)よりも低い割合であるのに対して、『子どものいる人(計)』は59.9%と高い割合となっている。
- ・ 「高齢者のいきがづくりへの支援」や「高齢者向けの情報収集、発信」においては、『子どものいない夫婦(計)』が他の世帯形態よりも高くなっている。